

「この人 44」

丸山紘一 神奈川県

編集部 俳句を始められたのは？

丸 山 四年ほど前に、近くの結社の俳句教室に参加したのが、俳句を始めるきっかけになりました。二〇〇九年一月に、新聞で滑稽俳句協会の記事を見て、何か探し求めていたものに出会った気持ちで、すぐに入会しました。俳句教室での作句に行き詰まりを感じていた処でしたので、救われた思いがあります。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

丸 山 詠む立場では、句にどういうメッセージを込めようかと色々思案を巡らすことでしょうか。また、鑑賞する立場では、得も言われぬ味わい深い作品に出会った時、無上の愉しみを感ずります。

編集部 俳句における滑稽とは？

丸 山 自分では中々詠み込めませんが、人情哢や狂言などが持つ「良質な笑い」が理想かと思えます

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

丸 山 様々な事態や状況に、ある程度の「ゆとり」を持って対応する姿勢を養えるのではないかと期待しています。いまだ修行の途次です。

【代表句】

惜しまれず去る人ありて夏終る
勝ち過ぎて引際成らず納め場所
吉野家に孤老の並ぶ聖夜かな
古里は人の数より花多し
平日の花見増えたる不況かな